

## 調査研究終了報告書

研究分野：環境

調査研究名	福岡県生物多様性戦略推進のための生物多様性指標の開発
研究者名（所属） ※ O印：研究代表者	○中島 淳、石間妙子、須田隆一、金子洋平（環境生物課）
本庁関係部・課	環境部・自然環境課
調査研究期間	平成26年度 - 28年度（3年間）
調査研究種目	1. <input checked="" type="checkbox"/> 行政研究 <input type="checkbox"/> 課題研究 <input type="checkbox"/> 共同研究（共同機関名：                     ） <input type="checkbox"/> 受託研究（委託機関名：                     ） 2. <input type="checkbox"/> 基礎研究 <input checked="" type="checkbox"/> 応用研究 <input type="checkbox"/> 開発研究 3. <input type="checkbox"/> 重点研究 <input type="checkbox"/> 推奨研究 <input type="checkbox"/> I S O推進研究
福岡県総合計画	大項目：環境と調和し、快適に暮らせること 中項目：豊かな自然環境を守る 小項目：自然環境の保全
福岡県環境総合ビジョン（第三次福岡県環境総合基本計画）※環境関係のみ	柱：自然共生社会の構築 テーマ：生物多様性の保全・再生のための総合的な対策の推進
キーワード	①生物多様性 ②生物多様性評価 ③保全 ④環境健全度評価 ⑤環境教育
<b>研究の概要</b>	
<b>1) 調査研究の目的及び必要性</b> 福岡県では平成24年度に生物多様性地域戦略を策定し、平成25年度からは行動計画の実施に入っている。その中で都市や河川、ため池、水田、森林などの生物多様性の状況がかわる指標を開発し、市町村やNPO等が行う生物多様性評価や取組の進捗状況の把握等を支援し、保全の取組を促進することが明記されている。そこで本研究課題では基礎的データ収集に基づいて、生物多様性評価を行うための新たな生物指標の開発を目的とする。	
<b>2) 調査研究の概要</b> 平成26年度-27年度は県内の自然環境の特性と特に指標化が可能な環境や生物種の検討を行い、候補として想定した干潟、ため池、都市、里山、海岸の5つの環境のうち、ため池・水路等の止水性湿地を対象とした指標の作成を決定した。平成27年度後半から最終年度にかけてはため池を中心とした止水性湿地30地点において、水生昆虫類を中心とした生物相の調査を行った。あわせて聞き取り情報により県内31地点の水生昆虫相の情報を得た。これら61地点のため池を中心とした止水性湿地における水生昆虫（コウチュウ目、カメムシ目）の分布データに基づいて、平均スコア法による指標を作成し、その実用性について検討した。	
<b>3) 調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください。）</b> 種組成のみから簡易に止水性湿地の生物多様性を評価可能な平均スコア法による評価手法を開発することができた。しかしながら、目標としていた学術誌への投稿には至らなかった。引き続きデータ解析を進め早急に論文化を行うとともに、新規研究課題「県民参加型の生物多様性調査マニュアルの開発」に引き継いで実用化を目指していきたい。	
<b>4) 県民の健康の保持又は環境の保全への貢献</b> 得られた指標を論文化後、早急に実用化を目指して努力したい。一方、本研究により県内61地点における止水性湿地における水生昆虫相のデータセットを得ることができ、この中には希少種の分布情報も多く含まれる。これらのデータについては、今後、福岡県生物多様性地理情報システムへの登録を行い、実際の生物多様性保全業務に活用予定である。	
<b>5) 調査研究結果の独創性、新規性</b> 止水性水生昆虫を用いたスコア法はこれまで類例がないが、学術誌掲載レベルまでにはデータ精度・解析法等課題もある。	
<b>6) 成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）</b> 止水性湿地における観察会は毎年継続して行われており、本指標が実用レベルまで完成すれば活用は可能である。早急な完成を目指すとともに、新規研究課題に引き継いで観察会用資料作成を進めたい。	